

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670100712		
法人名	医療法人 松岡会		
事業所名	山城グループホーム		
所在地	徳島市山城西3丁目19番地		
自己評価作成日	平成30年10月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成30年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るい雰囲気の中、家庭的で安心して生活を送ってもらっています。家族様とのつながりを大切にいつでも気軽に来所できる雰囲気作りを心がけています。看護・医療・介護の面で連携はともスムーズで、住み慣れた当グループホームでの最期を望まれる家族様も多く、スタッフ一同自身を持って取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周辺に新築住宅やマンション、スポーツ・商業施設、学校などがある環境に位置している。事業所は、「笑顔あふれる楽しい生活」を理念として掲げ、家庭的な雰囲気の中、利用者の生活を支援している。毎日、同一法人の医療機関の院長や看護師の往診や支援があり、医療ニーズの高い利用者や介護度の高い利用者にとっても、医療面の安心につながっている。終末期ケアにも積極的に取り組み、身体拘束の廃止や利用者本位・家族目線のケアに努めている。代表者の理解があり、管理者は、リーダーシップを発揮して、前向きで話しやすい雰囲気を作り、職員は生き生きと働いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時に理念を唱和し、理念を共有し日々実践に取り組んでいる。	事業所では、職員間で話しあい、その時の状況に合わせた理念に変更している。毎朝の申し送り時に全職員で理念を唱和し、共有している。新人職員にも理念について伝え、全職員で実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の文理の学園祭、介護実習の受け入れ、ふれあい健康館での行事見学に出向き地元の人々との交流に勤めている。町内会に加入しており秋祭りにも参加している。	事業所では、地域行事や近隣の学校行事に参加して交流を深めている。また、大学生の介護実習やボランティアも受け入れている。地域の民生委員から情報提供を受けて、地域行事に参加している。事業所周辺は、宅地化が進んでおり、新しい住民とも挨拶から交流できるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員全体で様々な研修や会合に係りながら認知症ケアの啓発に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様やサービスの状況、施設の活動等の報告を行い情報を提供し、意見交換・助言をいただきサービス向上に努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、事業所の活動報告を行い、タイムリーな議題について話している。歯科医師等の出席を得て、出された意見は、職員間で共有し、サービスの質の向上につなげている。家族が出席しやすいように日曜日に会議を開催し工夫しているが、毎回の会議に家族の出席は得られていない。	運営推進会議に、家族の出席の機会を多く得られるようさらなる工夫をされたい。会議で事業所の取り組みについて共有し、家族からのさまざまな意見を得ることで、さらなるサービスの質の向上に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月ながいき課に出向き、顔なじみの関係を作りいつでも助言をもらえ市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	職員は、毎月、市の担当窓口を訪問し、報告や相談をしている。生活保護の方の対応も担当者と連携を図っている。また、地域包括支援センターとも情報交換を行い、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が、身体拘束の内容を把握し、しないケアをしています。	職員は、勉強会等を通して身体拘束の内容とその弊害について理解に努めている。安全面にも配慮し、工夫しながら、日中は施錠せず、見守りや行動パターン把握によって利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体で日々の申し送りやコミュニケーションをしっかりと防止に努めている。また虐待防止マニュアルを作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当する利用者がいない為活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者や家族に十分な説明を行い理解・納得をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階玄関に意見箱を設置して自由に投函できるようにしている。また運営推進会議に参加してもらい意見交換を行っており、それらを反映できるよう努めている。	職員は、普段から利用者や家族に笑顔で接し、気軽に話ができる関係づくりに努めている。利用者や家族の意見や要望は職員間で検討し、運営面に反映するとともに、対応結果を利用者や家族に伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや責任者会議にて意見・要望等話し合いの場を設けている。職員個人の意見も反映できるように配慮している。	管理者は、日頃から職員と話しやすい雰囲気づくりに努め、コミュニケーションを大切にしている。職員から出された意見や提案は、職員間で話しあい、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、気軽に職員が相談できるように対応してくれている。また現場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に応じて内・外の研修に参加しやすいよう配慮してくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修に参加し他施設の方々と交流し、情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様本人の意見・要望にゆっくりと傾聴し安心して利用していただけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前より家族と話し合いをする機会を設けたり、不安・困っている事気軽にいつでも相談できるよう信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適時、その時に応じた本人と家族の要望を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々、利用者様・職員が安心して楽しく共同生活が送れ支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状態を家族様と共有し、特に体調変化時には密に連絡・報告を行い、本人を共に支えていく関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの馴染みの方が気軽に何度でも訪ねて来れるよう環境を整え、関係が途切れないように努めている。	職員は、利用者の馴染みの友人や知人の来訪を快く受け入れ、ゆったりと過ごすことができるように、笑顔での声かけに努めている。家族の協力を得て、お墓参りや帰宅等ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様 個人個人に合った役割・場所作りを心がけ、支えあえる関係作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、その後利用者様の紹介をしていただいたり相談にのったり関係を断ち切らない取組みをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様本人の意見・要望にゆっくりと傾聴し安心して利用していただけるようにしている。	職員は、日頃の関わりのなかで利用者の意向を聞いたり、表情や仕草から意向を汲み取ったりしている。職員は、利用者一人ひとりに対する気づきを大切にしている。申し送りや記録により職員間で共有しつつ、利用者本位のケアにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前より家族と話し合いをする機会を設けたり、不安・困っている事気軽にいつでも相談できるよう信頼関係の構築に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	適時、その時に応じた本人と家族の要望を見極め対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々、利用者様・職員が安心して楽しく共同生活が送れ支えあう関係を築いている。	事業所では、利用者や家族の意向や希望に基づき、医師、看護師等の意見を反映した介護計画を作成している。また、事業所独自の日常生活シートを利用し、利用者の心身状況の変化に応じた計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の状態を家族様と共有し、特に体調変化時には密に連絡・報告を行い、本人を共に支えていく関係作りをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	これまでの馴染みの方が気軽に何度でも訪ねて来れるよう環境を整え、関係が途切れないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様 個人個人に合った役割・場所作りを心がけ、支えあえる関係作りに努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約が終了しても、その後利用者様の紹介をしていただいたり相談にのったり関係を断ち切らない取り組みをしている。	事業所は、入居時の段階で、家族と話しあい、同一法人の医療機関をかかりつけ医としている。職員は、利用者の変化や気づきなどを毎朝の往診時に伝えている。専門医の受診は、家族と相談し、職員が支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適時看護師に状態報告している。じょくそう処置・点滴・受診時の付き添い等の支援をしている。バイタルチェックをし健康状態を把握している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時には、職員交代で様子を見に行き、主治医と情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化がある度に、医師・看護師・職員全体で話し合い、家族様に報告しています。今後にも備え検討や支援に取り組んでいる。	入居時の段階で、重度化や終末期の事業所の対応について、利用者や家族と話し合いを行っている。利用者の心身状態の変化があった際には、家族や医療関係者と話し合いの機会をもつようになっている。看取りケアに際して、家族が事業所に宿泊することができるように配慮している。管理者は、職員の心のケアにも気を配り、協力医療機関と密に連携を図りつつ、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し周知徹底を図っています。また24時間長・看護師に連絡が取れる状態になっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回非難訓練を実施している。また常に目に付くように非難場所の地図を掲載している。	年2回、消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。事業所では、災害対応マニュアルを整備し、避難経路図を掲示し、職員の防災意識を高めている。食料や防災用品を備蓄している。地域の避難場所としての要請を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を把握し、自尊心を尊重する声掛けを行っている。	職員は、法人が開催する個人情報やプライバシー、高齢者の尊厳の勉強会に参加し、内容を全職員で共有している。職員は、利用者一人ひとりの個性や人格を尊重した接し方やケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に合わせて、声掛けをし決めたことを押し付けるようなことをせず、一人ひとりの利用者様が自分で決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに沿って、見守りながら生活を送り体調に配慮しながら、本人の気持ちを尊重し柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好みの服を着て、朝・入浴後にお化粧をかかさずし午後から衣類を変えて楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在一緒に食事の準備が出来る入居者様がいないため食後のお盆拭きや、洗濯物をたたんだり出来る事をしてもらっている。	事業所では、ごはんと汁物を準備し、副食は外部へ委託している。食事は、利用者一人ひとりに合わせた形態で提供し、季節に応じた食事や行事食も工夫し、食事を楽しむことができるよう支援している。利用者は、心身状況に合わせて役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をチェックし職員が情報を共有している。発意熱者がいる場合特に水分補給に気をつけている。食事量の少ない方には、院長の支持により栄養補助食品を摂ってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。就寝前には、義歯を洗浄し洗浄剤に入れて消毒を行っている。必要な入居者様には訪問歯科を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンに応じておむつ交換・トイレ誘導を実施している。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。利用者の表情や仕草にも気を配り、トイレ誘導を行っている。必要に応じておむつを使用するなど、利用者一人ひとりの状態に配慮して支援している。残存機能を維持するための体操を行うなど、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日自家製のヨーグルトを作り、自然排便を促している。それでも排便がない場合には、水分量を多くしたり下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	機会浴と一般浴とに曜日を決めて入浴してもらっている。一人ひとり時間をかけてゆっくり入浴してもらっている。	事業所では、利用者の希望に応じた入浴を支援している。介護度の高い利用者には、機械浴を利用し、安全に入浴できるように対応している。入浴を拒む利用者には、時間を変えて声かけするなど工夫し、気持ちよく入浴できるよう配慮している。柚子湯等を利用し、季節を感じつつ、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、一日の生活リズム作りをしてゆっくり休憩・安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をケースごとに整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬は職員が介助し服薬してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔縫製していた利用者様には、ほころびを縫ってもらったりボタン付けをもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候のいい日には、公園に散歩に出掛けたり家族様と外食に出掛けたりして外出の支援をしている。	事業所では、車イスの方も近くの公園等に出かけることができるよう支援している。日常的な散歩のほか、初詣や花見、阿波踊りなど、季節に応じた外出支援を行っている。家族の協力を得ながら、利用者の自由な外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			南棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金は詰所で施錠して管理し、必要な物や利用者様が食べたいものは職員が購入している。小遣い帳のコピーと領収書は家族様に送っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望があれば、事業所の携帯電話を使用し人目を気にせず話をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よい音楽を流したり、廊下には季節感のある飾りなどを掲示し家具の配置は一緒に考え工夫している。中庭の月下美人の花が咲くのを楽しみにしている。	日当たりの良い居間からは、台所の様子が見え、調理の音や匂いを感じることができる。畳の間があり、ソファやテレビの配置や季節感のある飾り付けを工夫し、利用者が居心地よく過ごすことができるよう配慮している。中庭では、月下美人のほか、季節の花や野菜も育てている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室・廊下・食堂でそれぞれが心地よく過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	筆筒や椅子など使い慣れた物を置き、自作の俳句や家族の写真を飾りテレビなどを持ってきてもらっている。	居室には、利用者の馴染みの家具や小物、家族の写真等を持ち込んでもらっている。事業所から利用者の誕生日に送った色紙等も飾り、その人らしい居室となっている。居室は、清掃が行き届き、利用者の安全や身体状況にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・廊下・風呂場に手すりをつけ安全確保と自立への配慮をしている。流し台は食器を洗ってくれる利用者様の使いやすい高さになっている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西棟 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時に理念を唱和し、理念を共有し日々実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の文理の学園祭、介護実習の受け入れ、ふれあい健康館での行事見学に出向き地元の人々との交流に勤めている。町内会に加入しており秋祭りにも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員全体で様々な研修や会合に係りながら認知症ケアの啓発に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様やサービスの状況、施設の活動等の報告を行い情報を提供し、意見交換・助言をいただきサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月ながいき課に出向き、顔なじみの関係を作りいつでも助言をもらえ市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が、身体拘束の内容を把握し、しないケアをしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体で日々の申し送りやコミュニケーションをしっかりと防止に努めている。また虐待防止マニュアルを作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	西棟	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当する利用者がいない為活用していない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者や家族に十分な説明を行い理解・納得をもらっている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階玄関に意見箱を設置して自由に投函できるようにしている。また運営推進会議に参加してもらい意見交換を行っており、それらを反映できるよう努めている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや責任者会議にて意見・要望等話し合いの場を設けている。職員個人の意見も反映できるように配慮している。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、気軽に職員が相談できるように対応してくれている。また現場環境の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に応じて内・外の研修に参加しやすいよう配慮してくれている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修に参加し他施設の方々と交流し、情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	西棟	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様本人の意見・要望にゆっくりと傾聴し安心して利用していただけるようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前より家族と話し合いをする機械を設けたり、不安・困っている事気軽にいつでも相談できるよう信頼関係の構築に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適時、その時に応じた本人と家族の要望を見極め対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々、利用者様・職員が安心して楽しく共同生活が送れ支えあう関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状態を家族様と共有し、特に体調変化時には密に連絡・報告を行い、本人を共に支えていく関係作りをしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの馴染みの方が気軽に何度でも訪ねて来れるよう環境を整え、関係が途切れないように努めている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様 個人個人に合った役割・場所作りを心がけ、支えあえる関係作りに努めています。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西棟 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、その後利用者様の紹介をしていただいたり相談にのったり関係を断ち切らない取組みをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ほとんど食事を食べない利用者様には、生協を利用したり職員が買い出しに行き本人が望む食事を提供している。病院受診時にも職員が付き添っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様個人個人の生活歴を大切に、好みに応じて青汁・りんごジュース・コーヒー等自由に飲んで頂けるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様それぞれの生活リズム、心身状態を把握しその人にあった支援をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月その人に対して職員同士、意見・気づき等を出し合い介護計画に反映させている。また家族様の意見要望にもその都度対応している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の状態・気づきを職員全体で情報共有し、申し送りノートにも分かりやすく記載し介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人のニーズに合わせて訪問歯科を利用したり、PTによるリハビリをおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	西棟	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1回運営推進会議では、民生委員・歯科医院・包括支援センター・家族様方に参加していただき意見交換を行い支援に努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・家族様の希望を大切に自由で受診できるように支援している。また職員が同行したりしている。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適時看護師に状態報告している。じょくそう処置・点滴・受診時の付き添い等の支援をしている。バイタルチェックをし健康状態を把握している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した時には、職員交代の様子を見に行き、主治医と情報交換や相談に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化がある度に、医師・看護師・職員全体で話し合い、家族様に報告しています。今後に備え検討や支援に取り組んでいる。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し周知徹底を図っています。また24時院長・看護師に連絡が取れる状態になっています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回非難訓練を実施している。また常に目に付くように非難場所の地図を掲載している。			

自己	外部	項目	自己評価	西棟	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を把握し、自尊心を尊重する声掛けを行っている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に合わせて、声掛けをし決めたことを押し付けるようなことをせず、一人ひとりの利用者様が自分で決定できるように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに沿って、見守りながら生活を送り体調に配慮しながら、本人の気持ちを尊重し柔軟に対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好みの服を着て、朝・入浴後にお化粧をかかさず午後から衣類を変えて楽しんでいる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在一緒に食事の準備が出来る入居者様が少ないため食後のお盆拭きや、洗濯物をたたんだり出来る事をしてもらっている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をチェックし職員が情報を共有している。発意熱者がいる場合特に水分補給に気をつけている。食事量の少ない方には、院長の支持により栄養補助食品を摂ってもらっている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。就寝前には、義歯を洗浄し洗浄剤に入れて消毒を行っている。必要な入居者様には訪問歯科を利用している。			

自己	外部	項目	西棟	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンに応じておむつ交換・トイレ誘導を実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日自家製のヨーグルトを作り、自然排便を促している。それでも排便がない場合には、水分量を多くしたり下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	機会浴と一般浴とに曜日を決めて入浴してもらっている。一人ひとり時間をかけてゆっくり入浴してもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、一日の生活リズム作りをしてゆっくり休憩・安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をケースごとに整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬は職員が介助し服薬してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔縫製していた利用者様には、ほころびを縫ってもらったりボタン付けをもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候のいい日には、公園に散歩に出掛けたり家族様と外食に出掛けたりして外出の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西棟 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金は詰所で施錠して管理し、必要な物や利用者様が食べたいものは職員が購入している。小遣い帳のコピーと領収書は家族様に送っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望があれば、事業所の携帯電話を使用し人目を気にせず話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よい音楽を流したり、廊下には季節感のある飾りなどを掲示し家具の配置は一緒に考え工夫している。中庭の月下美人の花が咲くのを楽しみにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室・廊下・食堂でそれぞれが心地よく過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆笥や椅子など使い慣れた物を置き、自作の俳句や家族の写真を飾りテレビなどを持ってきてもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・廊下・風呂場に手すりをつけ安全確保と自立への配慮をしている。流し台は食器を洗ってくれる利用者様の使いやすい高さになっている。		